

第70回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成29年度秋期第70回日本歯科理工学会学術講演会が、新潟大学大学院医歯学総合研究科生体組織再生工学分野教授、泉健次先生を大会長として、2017年10月14、15日に新潟市の朱鷺メッセにて開催された。本大会における一般講演の演題数は、口頭発表29題、ポスター発表84題の計113題であった。また、Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーを兼ねた特別講演とランチョンセミナー、および企業展示が開催された。

新潟での開催は平成25年に日本歯科大学新潟生命歯学部校舎での開催以来4年ぶりとなった。今回の開催地である朱鷺メッセは、信濃川の万代島埠頭のほぼ中間点に位置し、北側には佐渡汽船の新潟港ターミナルが所在する。市の中心部からのアクセスは少し悪いものの、会議室、展示場、懇親会場のホテルが一体化しており、会場内の移動はとても便利であった。

大会初日の口頭発表では、研究奨励賞応募発表とレジン、CAD/CAM材料など13題の講演が行われた。また、ポスター発表では、生体用セラミックスとしてのジルコニアや再生医療応用を目指したリン酸カルシウムの演題が数多く見られた。ポスター発表の演題数は東京開催より若干少なかったが、会場は熱心に質疑応答を行う参加者で溢れんばかりであった。

今大会の特別講演は、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 水野潤教授によって、「デバイス科学を用いた歯科理工連携への新しい展開」と題して行われた。水野潤教授は「デバイス科学」というキーワードを中心

に、先端の加工技術を駆使してアドバンスマテリアルを研究されている。本講演では、歯科臨床応用と理工の連携に関する研究の一端を紹介いただいた。特に、歯科用樹脂材料の異種接合技術の開発やナノインプリント技術を駆使したオッセオインテグレーションメカニズムの解明は近未来の歯科医療に直結する内容で大変意義のあるものであった。また、大会初日の懇親会は隣接するホテル日航新潟31階展望室で行われた。酒どころ新潟を代表する日本酒がたくさん振舞われ、参加者は上機嫌で情報交換ができたと思われる。

大会2日目の口頭発表では、生体セラミックテーマが3セッション行われ、改めて現在の歯科理工学会の中心的研究テーマであることを認識した。初日と同様に熱心な質疑応答が行われた。また、ランチョンセミナーでは「デンチャー使用時の快適さ向上のためにできること」と題して行われた。クリームタイプの義歯安定剤を有効活用するためにどのような点を注意し患者さんに指導すべきかといった内容で現在の高齢社会に有用な情報を得ることができた。

泉健次大会長、大川成剛準備委員長を始めとする運営スタッフ皆様の御尽力により、今大会はつつがなく進行し盛況の内に終了した。これもスタッフ皆様の入念な計画と準備の賜物であると深く感謝し第70回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

さて、本年4月の第71回日本歯科理工学会学術講演会は、筆者が準備委員長として大阪歯科大学楠葉学舎で開催の予定である。開催地は京都と大阪の間に位置し、春の関西を楽しむには好位置であるが、昨今の外国人観光客の増加で宿泊施設が混雑しており、早めに予約されることをお勧めする。

橋本典也
(大阪歯科大学理工学講座)

